

1 ㈱札幌ドームの令和6年度決算見込み及び今後の業績予測について

【R6年度の実績】

- ◆ イベント日数の増加（98日→129日）に伴う貸館収入の増加
- ◆ ネーミングライツ（8か月分）や新規広告販売による広告料収入の増加
- ◆ サービス水準の低下につながらない範囲でのコスト削減継続に伴う経費の削減

【アマチュア大会支援に係る利益還元の見直し】

- ◆ アマチュア大会の主催者に対する使用料減免について、㈱札幌ドームの当年度の利益からの負担が難しい状況にあることから、当面の暫定的な措置として、同社の過去の利益を積み立てたスポーツ振興基金から負担することで、利益還元によるアマチュア大会支援を継続

➢ 収支改善の取組効果及び利益還元の暫定的な見直しにより、R6年度は黒字が見通せる状況

【R7年度の業績予測】

- ◆ 現時点で想定されるイベント開催見込み（年間120日程度）を反映して収支を試算
- ◆ ネーミングライツによる広告料収入の増を反映（R6は8か月分⇒R7以降は1年分）
- ◆ 料金改定による増収を一部見込む。（貸館申込が新料金公布後のものが対象）
- ◆ 物価高騰・賃上げ等に伴う委託料の増加を見込む。
- ◆ スポーツ振興基金を財源とした主催者支援（アマ大会、平日利用等）の活用を想定

- R7年度は、R6年度よりも更に収支が改善する見通し。
- R8年度以降については、料金改定に伴う増収や更なるイベント誘致等により、黒字の維持・拡大に取り組む。

【㈱札幌ドーム収支見込（R6決算見込み及びR7業績予測）】

(百万円)

	2023 (R5) 決算	2024 (R6) 見込	2025 (R7) 予測	備考
売上高(a)	1,271	1,669	1,765	
貸館	845	1,153	1,170	
商業	186	151	150	物販・飲食による収入
観光	7	5	5	展望台、ドームツアー等
その他(広告・駐車場 他)	232	358	440	
売上原価+販管費(b)	1,944(1,831)	1,756	1,820	
営業利益(a-b)	▲673(▲560)	▲87	▲55	
経常利益	▲560(▲448)	24	40	光熱費補填等
当期純利益	▲651(▲448)	24	40	

※R5決算の括弧内は、単年度要因を除いた実質的な運営赤字

【イベント開催日数（現時点の見込み）】

(日)

	2023 (R5) 実績	2024 (R6) 見込	2025 (R7) 見込	※参考 5年収支見込 (R6以降)
プロサッカー	20	22	22	20
コンサート	7	6	12	22
展示会、その他イベント	34	60	50	26
自主・共催イベント	12	10	10	13
その他プロスポーツ	5	4	2	4
アマチュア大会	20	27	24	27
総イベント日数	98	129	120	112

2 当初5年収支見込と現時点の収支見込との比較について

【㈱札幌ドームの当初5年収支見込と現時点の収支見込との比較】

(百万円)

		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
当初	売上高	1,535	1,912	1,999
	原価+販管費	1,843	1,894	1,895
	当期純利益	▲294	31	105
現時点	売上高	1,271	1,669	1,765
	原価+販管費	1,944	1,756	1,820
	当期純利益	▲651	24	40
当期純利益の差(現時点-当初)		▲357	▲7	▲65

【当初見込との差の主な要因】

- ◆ R5年度に想定外の単年度要因（特別損失等 約2億円）があったこと
- ◆ ネーミングライツの契約が当初想定より1年遅れとなったこと
- ◆ 広告料収入を含めたその他営業収入が当初想定よりも減少していること
- ◆ 収益性が高いコンサートの実績・見込が当初想定より減少していること

【収支見込悪化への対応】

- ◆ 収支悪化分の補填は、㈱札幌ドームが内部留保にて対応（税補填なし）

【今後の取組】

- ◆ 新規イベント誘致や平日利用促進等による更なる増収・増益に取り組む